

令和 8 年度 札幌市 英語教育改善プラン

目標

多文化共生社会を見据え、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る
資質・能力を育成する。

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①ICTの活用状況について、改善が見られた。

【学習者用デジタル教科書の活用】
(R5:62.4%⇒R6:70.4%)
【デジタルドリルや動画等のコンテンツの活用】
(R5:73.6%⇒R6:84.2%)

②授業における、児童の英語による言語活動について、改善が見られた。

【授業における、生徒の英語による言語活動の割合が50%以上の学校の割合】
(R5:90.4%⇒R6:94.2%)

①ALT等の授業への参画について、他校種と比べると、改善の余地がある。

【児童の発言や作文等に対するコメント・フィードバック】
(小学校3・4年 R5:83.2%⇒R6:90.3%)
(小学校5・6年 R5:90.4%⇒R6:92.3%)

※R6数値は、札幌市学校教育指導の実態調査

2. 要因分析

①②令和7年度札幌市英語教育改善プランにて、「ALT参画×ICT活用」の参考資料を作成・周知し、パワーアップ研修や札幌市英語教育改善プラン報告会（悉皆研修）等で取組を促進した。

①ALTによる児童の発言や作文等に対するコメント、フィードバックについては、数値は上昇傾向ではあるものの、その好事例については、引き続き、横展開する必要がある。また、児童が主体的に英語で伝え合う力を伸ばすために、ALTやICTの効果的な活用が重要。

3. 目標を達成するための施策・事業

【令和8年度の重点】

ALTによる効果的なフィードバックとICTの活用により、児童生徒一人一人の「話すこと」「書くこと」の高まりを目指す。
上記の重点において、次を視点とする。

ICTを活用した効果的なALTの参画～学習過程における個別のフィードバックを通したALTのかかわり～

①令和8年度の重点を踏まえた「パワーアップ研修」、令和8年度札幌市英語教育改善プラン報告会（悉皆研修）を実施する。
「パワーアップ研修」は、小学校英語専科指導教員だけではなく、学級担任や他校種の教員も参加できるようにする。また、札幌市英語教育改善プラン報告会では、札幌市英語教育改善プラン会議にて作成した資料を共有し、情報交流等ができる研修の場とする。

＜パワーアップ研修・札幌市英語教育改善プラン報告会 研修テーマ＞

- ・小中接続を意識した言語活動の在り方
- ・ALTとつくる子どもが英語で伝えたい授業づくりについて
- ・「ALTの参画×ICTの活用」による「話すこと」「書くこと」の好事例について

令和 8 年度 札幌市 英語教育改善プラン

目標

多文化共生社会を見据え、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：56.2%⇒R8：58.0%）

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
 （パフォーマンステスト含む）（AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①ALT等の授業への参画の具体的状況について、改善が見られた。

【パフォーマンステスト等の補助】
（R5:95.9%⇒R6:98.5%）

【生徒の発言や作文等に対するコメント・フィードバック】
（R5:97.9%⇒R6:99.0%）

②ICTの活用状況について、改善が見られた。

【1人1台端末等を用いた発表や話すことにおけるやり取りの場面での活用】
（R5:83.5%⇒R6:89.7%）

未だ改善が必要な点

①授業における、生徒の英語による言語活動について、改善が見られた。

【授業における、生徒の英語による言語活動の割合が50%以上の学校の割合】
（R5:51.9%⇒R6:60.0%）

※R6数値は、札幌市学校教育指導の実態調査

2. 要因分析

①②令和7年度札幌市英語教育改善プランにて、「ALT参画×ICT活用」の参考資料を作成・周知し、パワーアップ研修や札幌市英語教育改善プラン報告会（悉皆研修）等で取組を促進した。

①言語活動の充実については、引き続き、周知する必要がある。また、生徒が主体的に英語で伝え合う力を伸ばすために、ALTやICTの効果的な活用が重要。

3. 目標を達成するための施策・事業

【令和8年度の重点】

ALTによる効果的なフィードバックとICTの活用により、児童生徒一人一人の「話すこと」「書くこと」の高まりを目指す。上記の重点において、次を視点とする。

ICTを活用した効果的なALTの参画～学習過程における個別のフィードバックを通したALTのかかわり～

①令和8年度の重点を踏まえた「パワーアップ研修」、令和8年度札幌市英語教育改善プラン報告会（悉皆研修）を実施する。「パワーアップ研修」は、小学校英語専科指導教員だけではなく、学級担任や他校種の教員も参加できるようにする。また、札幌市英語教育改善プラン報告会では、札幌市英語教育改善プラン会議にて作成した資料を共有し、情報交流等ができる研修の場とする。

＜パワーアップ研修・札幌市英語教育改善プラン報告会 研修テーマ＞

- ・小中接続を意識した言語活動の在り方
- ・ALTとつくる子どもが英語で伝えたい授業づくりについて
- ・「ALTの参画×ICTの活用」による「話すこと」「書くこと」の好事例について

令和 8 年度 札幌市 英語教育改善プラン

多文化共生社会を見据え、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 82.6%、B1以上 44.7% ⇒ R8 : A2以上 85.0%、B1以上 45.0%)

目標

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①ALT等の授業への参画の具体的状況について、改善が見られた。
【パフォーマンステスト等の補助】
(R6:71.4%⇒R7:100%)

②ICTの活用状況について、改善が見られた。
【デジタルドリルや動画等のコンテンツの活用】
(R5:71.4%⇒R6:85.7%)
【キーボード入力等で書くこと】
(R5:85.7%⇒R6:100%)
【遠隔地の英語に堪能な人との個別会話】
(R5:14.3%⇒R6:42.9%)

①授業における、生徒の英語による言語活動について、改善の余地がある。
【授業における、生徒の英語による言語活動の割合が50%以上の学校の割合】
(R5:82.5%⇒R6:50.0%)

2. 要因分析

①②令和7年度札幌市英語教育改善プランにて、「ALT参画×ICT活用」の参考資料を作成・周知し、パワーアップ研修や札幌市英語教育改善プラン報告会（悉皆研修）等で取組を促進した。

①言語活動の充実については、引き続き、周知する必要がある。また、生徒が主体的に英語で伝え合う力を伸ばすために、ALTやICTの効果的な活用が重要。

3. 目標を達成するための施策・事業

【令和8年度の重点】
ALTによる効果的なフィードバックとICTの活用により、児童生徒一人一人の【話すこと】【書くこと】の高まりを目指す。
上記の重点において、次を視点とする。

ICTを活用した効果的なALTの参画～学習過程における個別のフィードバックを通したALTのかかわり～

①令和8年度の重点を踏まえた「パワーアップ研修」、令和8年度札幌市英語教育改善プラン報告会（悉皆研修）を実施する。
「パワーアップ研修」は、小学校英語専科指導教員だけではなく、学級担任や他校種の教員も参加できるようにする。また、札幌市英語教育改善プラン報告会では、札幌市英語教育改善プラン会議にて作成した資料を共有し、情報交流等ができる研修の場とする。

＜パワーアップ研修・札幌市英語教育改善プラン報告会 研修テーマ＞
・小中接続を意識した言語活動の在り方
・ALTとつくる子どもが英語で伝えたい授業づくりについて
・「ALTの参画×ICTの活用」による【話すこと】【書くこと】の好事例について

札幌市教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		70	75.1	80	68.4	75	82.6	85		87	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		35	40.8	42	20	25	44.7	45		47	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		50	82.5	85	50	85		85		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		55	23.1	55	47.5	55		60		65	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	90	62.5	90		90		90		90	
		達成状況の把握（％）	90	75	90		90		90		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80	88.8	90	84	90	97.4	98		99	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		65	48.7	65	40	65	60	65		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	48.8	60	50.2	55	56.2	58		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		70	51.9	70		70		65		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		95	70.8	95		95		95		95	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	87.6	100		100		100		100	
		公表（％）	65	49.5	65		65		70		70	
		達成状況の把握（％）	70	53.6	70		70		75		75	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	47.6	50	51	55	72.6	75		75	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		65	35.7	65		65		65		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	89.3	100		100		100		100	
		公表（％）	60	50.3	60		65		70		75	
		達成状況の把握（％）	90	69.5	90		90		95		95	